

あきたの りょう いかち たの

VOL. 480
2014.4.25



今月の
1枚

北阿気地区 堰払いの様子

菜の花の咲く頃に始まる、農業用水路の堰払い。農業者が一列に並んで泥やゴミ等を取り除く作業の様子は、農村の名物でもあるでしょう。脈々と受け継がれる作業は地域を守り、活性化にも繋がっています。

写真提供：佐々木 隆
(阿気土地改良区)

- CONTENT 1 水土里ネット秋田第56回通常総会を開催
- CONTENT 2 秋田県土地改良関係機関の紹介
平成26年度水土里ネット秋田事務局体制

本会第56回通常総会

3月24日(月)、本会第56回通常総会を秋田市文化会館で行い、会員117名(内委任状52名)が出席したほか、来賓として橋口昌道秋田県副知事、金田勝年衆議院議員等、多数のご臨席を賜った。



所用で欠席した高員会長に変わり、正木副会長が「国、県の施策に対応した各種事業の円滑な推進に尽力することはもとより、会員皆様の事業推進に対する支援を始めとする従来からの事業展開に加え、会計システムに連動する賦課金徴収システムの導入など、新たなニーズにも応え、本県農業の体質強化や豊かで活力ある農村の創造に向け、役職員一丸となって邁進して行く」と挨拶を行った。引き続き行われた功労者表彰では優良7団体及び11個人が表彰された。橋口副知事からは「農家の方々とともに地域農業の将来の姿を描きながら、小水力など新エネルギーの活用を図ることを含め、生産基盤の整備や、農業・農村の多面的機能の維持・向上をリードして頂きたい」とのご祝辞を頂いた。

議事では、柴田均理事長(羽後町土地改良区)



を議長に選任し、平成24年度事業報告・一般会計収支決算及び財産目録について、平成25年度一般会計収支補正予算(理事会専決処分)について、平成26年度事業計画・一般会計収支予算等が審議され、議案はすべて原案通り議決された。

平成26年度事業計画では、従来からの事業展開に加え、担い手へ集積を行うほ場整備事業や農地中間管理機構との連携による強い農業基盤づくりに対する支援、会計システムや賦課金徴収システム等による土地改良区への事務支援、水土里情報システム利活用の推進、小水力発電等の再生可能エネルギーに関する調査及び業務の実施、ため池調査への取り組みや農地防災・災害復旧の技術向上、農業水利施設内の「ゴミ」問題について日本型直接支払活動組織との連携、技術士事務所を強化し、成果品の審査機関として品質確保に努める活動を行い、更には、総合的な管理手法を用いた農業水利施設アセットマネジメント支援を展開していくこととした。

また、役員の新補欠選任では、新たに理事として鈴木清理事長(男鹿東部土地改良区)、監事として真壁末治郎理事長(潟上市天王土地改良区)が選任された。

最後に、清野専務理事により「決議文」が朗読され、満場一致で採択された。

なお、表彰者は次のとおり。

団体表彰

- ◇金章 稲川土地改良区、本荘東由利土地改良区
- ◇銀章 かつの土地改良区、二ツ井町土地改良区
大仙市鶯野土地改良区
- ◇銅章 峰浜土地改良区、男鹿市渡部土地改良区

個人表彰

根本良己、近藤範夫、畠山篤美、吉田陽一、鈴木昇、相庭安一
伊藤みな子、畑山傳一、武田一美、佐藤貞夫、藤原繁朗(敬称略)



決 議



農業は国の大本であり、豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものである。しかしながら、今日の農業・農村においては、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積している。更に、TPP交渉の行方如何によっては、安全な食と農業、美しい農村に重大な影響を与えることが危惧される。

水土里ネットは、如何なる状況にあっても、農地・農業用水等の地域資源を良好な状態で次世代に継承していく責務がある。この責務の遂行に不可欠な農業農村整備予算は、平成22年度に大幅削減され、復活の兆しはあるものの、真に復活したと実感できる規模には至っていない。

また、我々自身も組合員の高齢化、これに伴う世代交代の加速化、土地持ち非農家や耕作放棄地の増加、資源管理の粗放化等の多くの課題に直面しているところである。加えて、農業水利施設の老朽化が進行する中、国民の生命と財産を守るためにも、農村地域の防災・減災が喫緊の課題となっている。

こうした状況の下、政府は、農業・農村の所得倍増を目指し、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」、「国土強靱化」の実現に向け、「農林水産業・地域の活力創造プラン」や「国土強靱化政策大綱」を決定したところである。水土里ネットは、農業・農村、更には、我々自身が抱える課題を直視し、国が示した改革の方向を踏まえ、積極的な貢献を果たしていく覚悟である。

このため、新たな農政改革の初年度を迎えるに当たり、ここに参集した同志が一致団結して、次の事項の実現を図り、農業農村整備を推進していくことを総会の名において決議する。

記

- 一、安定的、計画的な事業執行のために、平成27年度当初予算において、平成22年度に大幅に削減された農業農村整備予算が復活したと実感できるような規模を確保すること。
- 一、TPP交渉により、日本の食の安全・安心を担い、多面的機能を発揮している農業・農村とこれを支える農家の生産意欲に、悪影響を及ぼすようなことは断固行わないこと。
- 一、食料自給率の向上と集落営農を含む担い手への農地集積の加速化を実現し、水田の大区画化や汎用化、かんがい排水施設の整備をはじめとした各種の対策を着実に推進すること。
- 一、国土強靱化を踏まえ、農業水利施設の長寿命化と耐震化、洪水被害防止対策等の防災・減災対策を、国が責任をもって推進すること。
- 一、水土里ネットが有する技術と経験、地図情報システムを活用し、農地中間管理機構との連携の強化により、担い手の育成や面的集積に貢献すること。国においても、構造改革の進行が担い手の負担や水利用に与える影響に対して万全の措置を講ずること。
- 一、多面的機能支払制度を積極的に活用し、資源の適切な管理を通じて、構造改革を後押しするとともに多面的機能の発揮に貢献していくこと。国においても、地方負担や定着している現行の仕組みに十分配慮すること。
- 一、農業・農村が有する資源を有効に活用し、再生可能エネルギーの普及、維持管理費の低減に資するため、小水力や太陽光発電を推進すること。



平成26年3月24日

秋田県土地改良事業団体連合会 第56回通常総会
(水土里ネット秋田)

目次

CONTENTS

本会第56回通常総会	2	特集：我が水土里ネット	13
本会役員を紹介(写真入り)	4	馬場目川水系土地改良区・鈴木善久	
県関係機関を紹介(人事異動)	5	特集：随想 本荘東由利土地改良区・伊藤みな子	14
新任挨拶	6	連合会日誌、会員だより	
県の土地改良関係課(事務分掌)	7	特集：地域からの情報発信	15
事業予算概要	8	水土里レポーター・倉田一治	
H26本会機構図及び事務局体制	10	平成26年度土地改良事業振興基金制度	16
本会 新任職員を紹介	12	ゴミ問題 シリーズ⑰ 水土里のゴミゼロDAY	
合併予備調印(由利本荘市)	13	ちよつと耳より知恵袋、編集後記	

水土里ネット秋田 役員紹介

平成26年4月1日現在

◆会長



高 貝 久 遠

◎秋田県田沢疏水土地改良区
理事長

◆副会長



正 木 正 一

◎大内土地改良区
理事長

◆副会長



畠 山 清 俊

◎比内町土地改良区
理事長

◆専務理事



清 野 弘 久

◎員外(学識経験者)

◆常務理事



水 戸 憲 光

◎員外(学識経験者)

◆理 事



長谷部 誠

◎由利本荘市長

◆理 事



田 中 長

◎琴丘土地改良区
理事長

◆理 事



小 畑 元

◎大館市長

◆理 事



田 口 信 一

◎かづの土地改良区
理事長

◆理 事



大 坂 芳 市

◎雄勝郡山田五ヶ村堰
土地改良区理事長

◆理 事



柴 田 康 二 郎

◎秋田県雄物川筋土地
改良区理事長

◆理 事



松 田 知 己

◎美郷町長

◆理 事



鈴 木 清

◎男鹿東部土地改良区
理事長

◆総括監事



藤 井 弘 道

◎秋田県南旭川水系
土地改良区理事長

◆監 事



小 川 善 信

◎能代南土地改良区
理事長

◆監 事



真 壁 末 治 郎

◎潟上市天王土地改良
区理事長